

命を守る行動とは

茨川市立茨川北中学校一年

まつの
松野

りょうせい
琉晟

日本は近年、土砂災害をはじめとする、水

害が頻発しています。天候が不安定になりや

すい夏場では、毎年のように凄惨なニユース

を見聞きしています。

僕の記憶で新しいのは、令和三年七月三日

に静岡県熱海市伊豆山地区の逢初川で発生し

た大規模な土砂災害です。この災害では、死

者二十六人、行方不明者一人、建物等被害百

二十八棟と、非常に大きな被害をもたらした

災害でした。

この災害のほじまりは、六月末から梅雨前

線が北上し、数日間にわたって断続的に雨が

降り続き、静岡県の複数地点で降水量の観

測史上一位の値を更新するなど記録的な大雨

となり、逢初川の源頭部から崩落し、土石流

となつて町を飲み込んだことです。そしてこ

の崩落した土砂の大部分は、他所からの搬入

された盛土であったと推測されたようです。

熱海市では、七月二日に警戒レベル3の高
 齢者等避難が発令されたが、土砂災害警戒
 情報が発表されてから、警戒レベル4で避難
 指示は発令されなかったそうです。当時の
 テレビから流れてくる映像や、インターネット
 からの情報に僕はとても恐ろしく、信じ
 られないという思いがありました。なので、
 今回はこの土石流について詳しく調べてみよ
 うと思いました。

土石流とは多量の岩石や土砂が川の水に運
 ばれて発生します。特に大雨の後に起きが
 やすく、川底や山の斜面を削って雪だるまの
 ように膨らみながら、ものすごい速度で下流
 を襲うので、住宅や田畑などに大きな被害が
 出ます。その他にも地すべりやかけ崩れなど
 大きな被害をもたらし、ものもあります。この
 災害を僕なりに二つ考えてみました。

まず一つ目は早い段階で高齢者避難指示は
 出ていたが、土砂災害警戒情報は発表された
 ものの、避難指示は発令されなかったという

状況だったことに、僕は危険や不安を感じた
時には、避難指示に頼らずに自主的に行
動することか大切だと思いました。先日モテ
しびで被害の出た地域の方が、空振りでもい
いから、避難して正解なのでと話ししてい
たのを本当にその通りだなと、あらためて感
じました。
二つ目は地域での助け合いの大切さです。そ
こで僕の体験をお話ししたいと思えます。
土砂災害とは異なりますが、僕の家は利根川
に近い、土地が低い場所に建っています。五
年前に連日の長雨と台風の影響により、河川
の氾らん危険水位に達し、避難指示が出され
たことがありました。母が頻りに情報を確
認し、いつでも避難できるように、大切なも
のや必要になりそうなものを一つにまとめ
ていました。しかし、雨の音で防災無線はま
たく聞こえず、親の携帯電話が頼りでした。
消防の人が近所をまわっていて、僕は
不安と怖さでいっぱいでした。近所の人達が

誰か家に残っているかなど、まったく分から
 ない状況の中、僕の家族は近くの姉の住む家
 に行きました。幸い大きな災害にはあわす、
 無事に済みましたが、本当に怖い体験でした。
 後から聞いた話では、避難せずに、自宅に
 とどまつた人達もいるとのことでした。
 しかし、もし川が氾らんしていたら、と最悪
 な事を想像するとさらに恐ろしさを感じてし
 まいました。
 このような体験から、地域の人達と声をか
 け合ったり、一人暮らしの高齢者の手助け、
 情報の共有が必要なのだと強く感じました。
 ですが、毎日、何事も無く過ごしていると
 いつの間にか、不安な気持ちかすれてしま
 い、テレビなどのニュースも他人事のように
 なってしまいます。
 なので、もう一度地域のハザードマップ、
 避難場所、避難ルートそして、家族が離ればな
 れで居た時の集合場所など、かかりと確認し
 っておくことの大切さを行動に移していきたい

と 思 い ま す 。

今 年 も 毎 日 の よ う に 'ゲ'リウ豪雨、線状降水
帯 等 の 災 害 の ニ ュ ー ス を 耳 に し ま す 。 自 然 の
恐ろしさを甘く見ずに、いつ起こるか分から
ない災害に備え、家族や友達とも、自分の
命を守るために何をすべきか、もう一度話
し合いたいと思います。

雨も全く降らなければ、水不足となり、自
然や私達の生活に大きな影響を与えます。適
度に降るのが理想的ですが、それは無理なの

で、日々私達する気象予測などのシステムを
最大限活用し、自然と上手に付き合っていく
ことが大事だと思います。